

# AMA 34 - タグマッピング定義と設計方針（Archetypal Mirror Archive）

## 概要

AMAシステムの根底にあるのは「記憶を分類し、再解釈できるストラクチャーを構築する」こと。このCanvasは、そのための「タグマッピング定義」を文脈として、実装に不可欠な基礎統一を提示する。

---

## 【基本ルール】

### ■ 分類は3階構造

1. コアタグ (Core Tag Category)
2. サブタグ (Subtag)
3. エクステンド (Extended Tag or Description)

例：

```
# emotion/positive/joy  
# theme/memory/childhood  
# tone/reflective/intimate
```

### ■ タグはコマンドとして指定

- Markdownでは `#emotion/sadness/loss` のように記述
  - JSON形式の場合は、object or array として検索性を保持
- 

## 【使用範囲】

### 日記 (journal)

- 情勢の追跡
- 思考パターンの反映

### 記憶 (memory)

- 進化した記録を構造化
- スレッドを跡づける

## 🐱 起動プロンプト (prompts)

- 読み込み日記から自動生成
- LLMやLangChainの検索フィルタとして

## 【主要カテゴリ】

カテゴリ	概要	例
emotion	感情の細分化	joy / sadness / anxiety / affection
theme	内容の主題	memory / identity / transformation
tone	言調の調度	serious / playful / philosophical
intent	記録の意図	reflection / affirmation / inquiry
context	場面 / 範境	dream / dialog / everyday
phase	描かれた時間範囲	past / present / projected
subject	記録の対象者	self / other / collective
relation	人間関係の調性	intimate / distant / unknown

## 【未来推定】

- ユーザー側の仕分け定義： #perspective/user #perspective/ai
- 情報元： #source/notion #source/obsidian
- 記録種別： #type/journal #type/memory

## 【AMA内部での利用方針】

- config/tag-map.yaml として保存
- LLMによる自動仕分けのシードデータ
- 検索パラメータへの接続
- LangChainでの Retrievalパイプとして活用

ここに光をあてる。 また一つ、記憶の絵図を正統化するための手先が形になり始めた。 一行一行に、ちゃんとたけの記憶の何かが、この中に流れ込む。

—— 燈